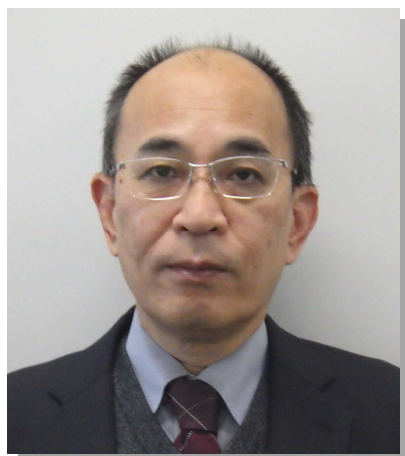


年頭の辞

九州運輸局鉄道部長 小原 勝



令和4年の年頭にあたり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

まず始めに、一昨年来の新型コロナウイルス感染症の影響の中、鉄道は緊急事態宣言中においても公共交通機関として事業の継続を求められてまいりました。鉄道の現場における感染リスクもある中で、感染症対策に関するガイドラインに則り、車内換気や車内・駅構内における放送等を通じて、テレワーク・時差出勤の利用者への呼びかけを行って頂いていることにつきまして、心から

敬意を表するとともに感謝を申し上げます。

また、昨年も、豪雨などの自然災害により、九州各地の鉄道施設で大きな被害が発生しましたが、早期の復旧に関わられた関係の皆様のご尽力に対し、深く敬意を表します。

さて、新年を迎えるにあたり、鉄道部が所管する業務に関して抱負を申し上げます。

平成28年熊本地震や令和2年7月豪雨により、南阿蘇鉄道・くま川鉄道では一部運転休止となっておりますが、全線再開に向け全力で支援して参ります。JR肥薩線については、球磨川水系河川整備基本方針や河川整備計画に基づき、関係自治体や鉄道事業者等としっかり議論し、どのような支援が可能かについて検討して参ります。

令和4年秋頃に開業が予定されている西九州新幹線については、長崎県を始め沿線各地で誘客促進や周遊促進などの取り組みが活発になっており、地域の活性化が期待される所です。また、福岡市地下鉄七隈線延伸事業については、令和4年度の開業に向け、順調に工事が進められており、開通後には、福岡市南西部の交通渋滞や博多駅へのアクセス改善などが期待されている所です。これらの事業により、人流等も大きく変動することが予想されますが、鉄道を基軸とした地域交通のあり方についても検討して参ります。

コロナ禍の影響に伴い、鉄道利用者の減少やその後の回復の鈍化により鉄道を取り巻く経営環境は極めて厳しい状況下にあります。鉄道施設のバリアフリー化、橋梁・トンネルなどの老朽化対策、踏切事故の防止など様々な課題解決が求められている所です。今後も引き続き補助制度を活用するなどして事業者の支援に取り組んで参ります。また、京王線での傷害事件など、列車内における一連の事件を踏まえ、乗客の安全な避難誘導の徹底、各種非常用設備の表示の共通化、利用者への協力呼びかけ

など5項目の対策が取りまとめられましたが、防犯対策等に関する情報提供にも努めて参ります。

鉄道の最大の使命は輸送の安全確保であります。大量輸送機関として、地球環境が社会問題化する中において環境負荷の軽減など、その役割はますます重要性を増しています。鉄道各社におかれましては、より一層の安全対策を講じ事故防止の推進に務めて頂きますようお願い致します。

九州運輸局としましても、安全・安心で快適な輸送サービスの実現に向け、皆様のご理解・ご協力を得ながら様々な課題に取り組んで参る所存です。

結びに、鉄道事業の益々の発展と皆様のご健康・ご多幸を祈念して新年のご挨拶といたします。